

一層大ならしめる。さいふのは、この方法では、その手續と範圍が多種多様であつて、言はず、無限にも展開せられるであらうから、例へば子供の興味の湧き出る泉が廣くなつたやうなもので、恐らく混々として流れて盡きぬであらう。然し、最も大事なことは、この方法によつて、かのそれ自身を目的とする所の遊戯の本質を、それから目的を覗ひ外つさず追求する所の作業の姿態とが、この態度の中に於ては、知らず識らずの間に、おのづから混和せられ、おのづから融合せられて、そして所謂遊戯から作業へのその大事な移り行きを、茲に完うさせる基礎を築くといふの一點である。

プロジェクト法は、學習を導いて有効ならしめる爲に案出された一つの方法であつて、保育の爲に考へられたもので無いのは言ふまでも無い。又幼稚園が、規則立つた學習の場所でないことも明らかである。唯だ、その作業の方面に於て、この法の趣旨を取ることは有益なことであらうと思はれる所から、茲にこれを一言したのである。

バツド・ボーイ

十番目の劇のとき不幸なことが持上つて、僕の俳優の生涯が、これでおしまひになりそうだった。それは僕達は其時瑞西の英雄ウイリヤム・テルの劇をやつてゐたのである。勿論僕がテルになつてさ。實はフレッドが、そのこの役に當りたがつてゐたのだが、僕がそれをさせなかつたもんだから、やつこさん、おこつて、たつた一つの弓と矢を持つて、仲間からのけてしまつた。仕方なく僕は鯨鬚の片で石弓を拵らへたが、それでさかくフレッドもさかくも事足りた。

オーストラリヤの暴君ジェスラーがテルに嚴命して、テルの息子の項においた林檎を射落させる。いふ所だ。ビーバーは子役と女形をみんな引うけてゐたが、今度はテルの息子になつた。間違の用意にホール紙をビーバーの上額にあてて、

ハンカチで結んだ。そして用ゐる矢先もフランネルの小片でくるんでおいた。僕は上手な射手である。そして大きなりんこが、ほんの六尺の距離に、僕の方を向いて、赤い頬べたを美しくすねた。僕は可愛そうな小ちやいビーバーを見た。ビーバーは、ためらはず、僕にこの偉業を果させるために神妙に待ちもつてゐるのであつた。僕は集つた観客が息を凝して静り返つてゐるのを機に石弓をさり上げた。……観客はケチイばあやをわけて男の兒が七人、女の兒が三人である。ケチイばあやは、縫針が入場料の代りなしに、事はないさいつて激論したのであつた。……繰返していふが、僕は石矢をさり上げた。……鞭繩の弦が手を、れた。だが、あはれ、矢は林檎に當らないで、ビーバーのあいた口の中へ眞當に飛込んでしまつた。それはビーバーがたま／＼矢咄をしやうとして、そして僕の的を外したのである。